

2018年11月7日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社
 コード番号 2269 URL <https://www.meiji.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川村 和夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 IR広報部長 (氏名) 古田 純

TEL 03-3273-3917

四半期報告書提出予定日 2018年11月9日

配当支払開始予定日

2018年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	611,971	0.1	43,840	2.9	43,873	4.9	38,316	21.9
2018年3月期第2四半期	611,494	0.8	45,127	20.9	46,116	27.8	31,433	29.2

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 43,865百万円 (19.6%) 2018年3月期第2四半期 36,673百万円 (206.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	264.23	
2018年3月期第2四半期	216.33	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第2四半期	1,003,905	552,863	51.8	3,588.54
2018年3月期	925,237	495,177	52.7	3,360.70

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 520,465百万円 2018年3月期 487,310百万円

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等になっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		57.50		72.50	130.00
2019年3月期		65.00			
2019年3月期(予想)				65.00	130.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,265,500	2.0	101,000	6.7	101,000	5.3	71,000	15.9	489.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細は、[添付資料]8ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 2 社 (社名) KMB株式会社、KMバイオロジクス株式会社、除外 1 社 (社名) KMB株式会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]15ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 有
会計上の見積りの変更 : 有
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期2Q	152,683,400 株	2018年3月期	152,683,400 株
期末自己株式数	2019年3月期2Q	7,648,035 株	2018年3月期	7,680,613 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期2Q	145,012,822 株	2018年3月期2Q	145,308,427 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]8ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算短信補足説明資料の入手方法について)

決算短信補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	11
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	15
(継続企業の前提に関する注記)	15
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	15
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	15
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	15
(追加情報)	15
(セグメント情報等)	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「2020中期経営計画」の初年度を迎え、基本コンセプト「継続的戦略課題への取り組み」と「成長に向けた新たな挑戦」に基づき、「コア事業での高シェア・高収益の実現」「海外市場での成長基盤の確立に向けた積極的な事業拡大」「健康を軸とした新たな価値領域での仕掛け」「構造改革の継続的な実行と個別事業課題の克服」「経営基盤の進化とCSRの推進」に向けた取り組みを開始しました。

2019年3月期は、2020中期経営計画の達成に向けて、食品・医薬品の両セグメントともにコア領域・成長領域に経営資源を重点的に投下し、売り上げ拡大に取り組むとともに、海外事業の展開も積極的に進めています。また、食品セグメントでは物流費や人件費の上昇、医薬品セグメントでは薬価改定の影響を大きく受けるなど両セグメントともに厳しい環境下において、費用の効率的な支出や生産性向上に取り組んでいます。

当第2四半期連結累計期間の売上高は6,119億71百万円（前年同期比0.1%増）、営業利益は438億40百万円（同2.9%減）、経常利益は438億73百万円（同4.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は383億16百万円（同21.9%増）となりました。

なお、2018年7月2日付で当社および当社の事業子会社であるMeiji Seika ファルマ株式会社は、一般財団法人化学及血清療法研究所の主要事業を承継したKMバイオロジクス株式会社の株式を49%取得し、連結子会社化しました。

(単位：億円)

	2018年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 第2四半期累計	対前年同期	
			増減額	主な増減要因
売上高	6,114	6,119	4	詳細はセグメント別の概況に記載
営業利益	451	438	△12	詳細はセグメント別の概況に記載
営業外収益	19	14	△4	持分法による投資利益△3、為替差益△1
営業外費用	9	14	5	為替差損+5
経常利益	461	438	△22	—
特別利益	33	133	99	負ののれん発生益+65、固定資産売却益+37
特別損失	26	41	14	災害(地震、台風等)による損失+10、減損損失+8、固定資産廃棄損△9
税金等調整前 四半期純利益	468	531	62	—
法人税等	148	144	△3	—
非支配株主に帰属する 四半期純利益	5	3	△2	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	314	383	68	—

セグメント別の概況は次のとおりです。

①食品セグメント

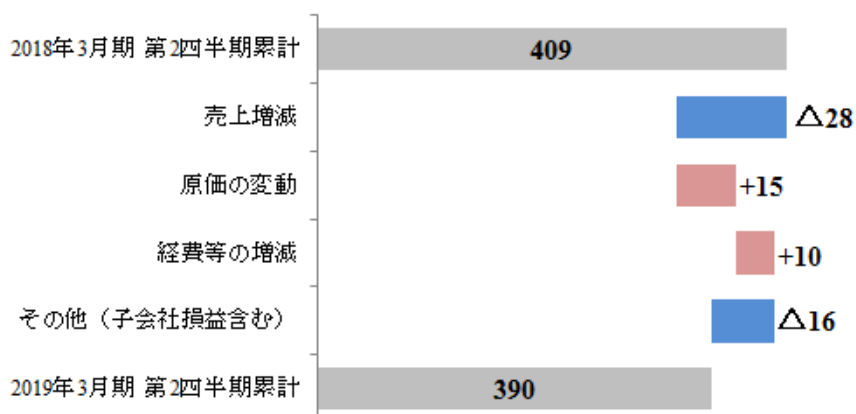
- ・売上高は前年同期を下回りました。加工食品事業、栄養事業、海外事業は前年同期を上回りましたが、プロバイオティクスや牛乳類の減収により発酵デューリー事業は前年同期を下回り、菓子事業は取引制度変更の影響やチョコレートが減収となったことから前年同期を下回りました。
- ・営業利益は主力のプロバイオティクスやチョコレートの減収等により前年同期を下回りました。

(単位：億円)

		2018年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率
食 品	売上高	5,342	5,248	△1.8%
	営業利益	409	390	△4.6%

営業利益増減分析

(単位：億円)



事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2018年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率		2018年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率
発酵 デューリー	1,706	1,655	△3.0%	発酵 デューリー	246	224	△9.0%
加工食品	889	914	2.8%	加工食品	40	43	9.1%
菓 子	593	504	△15.1%	菓 子	72	62	△13.7%
栄 養	435	445	2.4%	栄 養	72	72	0.3%
海 外	205	217	5.8%	海 外	3	5	48.3%
その他 国内子会社	1,512	1,511	△0.1%	その他 国内子会社	26	23	△10.5%
				全社共通費	△52	△41	—

【発酵デairy事業】 (ヨーグルト、牛乳類、飲料等)

- ・売上高は、リニューアルした「明治ブルガリアヨーグルト」のプレーンタイプが好調に推移しましたが、プロバイオティクスおよび牛乳類が減収となった結果、前年同期を下回りました。
- ・営業利益は、減収の影響や物流費等の増加により前年同期を下回りました。

【加工食品事業】 (チーズ、バター・マーガリン、クリーム、アイスクリーム、冷凍食品等)

- ・売上高は、「明治北海道十勝カマンベールチーズ」や業務用クリームが好調に推移したことに加え、アイスクリームも「明治エッセルスーパーカップ」シリーズが増収となり、前年同期を上回りました。
- ・営業利益は、主要製品の増収により前年同期を上回りました。

【菓子事業】 (チョコレート、グミ、ガム等)

- ・売上高は、2018年4月からの取引制度見直しによる販売価格の変更やチョコレートの減収に加え、2017年8月からスナック菓子「カール」の販売エリアを縮小したこともあり前年同期を大幅に下回りました。
- ・営業利益は、減収の影響により前年同期を大幅に下回りました。

【栄養事業】 (スポーツ栄養、粉ミルク、流動食、美容、OTC等)

- ・売上高は、粉ミルクが好調に推移したことや、流動食の「明治メイバランス」シリーズの増収などにより前年同期を上回りました。
- ・営業利益は、販促費等が増加したものの主要製品の増収により前年同期並みとなりました。

【海外事業】 (海外子会社、輸出)

- ・売上高は、ベトナム向け粉ミルクの輸出が拡大し、中国子会社も好調に推移したことから前年同期を上回りました。
- ・営業利益は、輸出事業の伸長や中国子会社の増収により前年同期を大幅に上回りました。
- ・2018年4月より台湾明治食品股份有限公司を連結子会社化しました。

【その他国内子会社】 (飼料、畜産品、砂糖および糖化穀粉、運送等)

- ・売上高は、砂糖商社子会社や畜産品子会社の減収の影響がありましたが、物流子会社や飼料子会社の増収により前年同期並みとなりました。
- ・営業利益は、畜産品子会社等の減収により前年同期を大幅に下回りました。

②医薬品セグメント

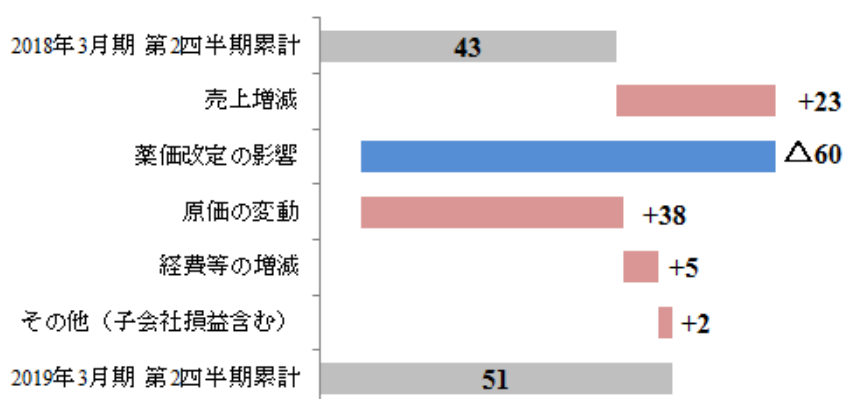
- ・売上高は、2018年4月に実施された薬価改定の影響がありましたが、国内主力品の販売数量の伸長や海外子会社が好調に推移したことに加え、2018年7月よりKMバイオロジクス社を新たに連結したことにより前年同期を大幅に上回りました。
- ・営業利益は、薬価改定の影響を国内主力品の増収や原価低減の取り組みで増益を図り、併せて新規連結したKMバイオロジクス社の寄与により前年同期を大幅に上回りました。

(単位：億円)

		2018年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率
医薬品	売上高	777	876	12.6%
	営業利益	43	51	17.5%

営業利益増減分析

(単位：億円)



事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2018年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率		2018年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 第2四半期累計	対前年同期 増減率
国内	582	584	0.2%	国内	23	42	78.4%
海外	195	205	5.4%	海外	20	7	△65.0%
生物学的 製剤※	—	99	—	生物学的 製剤※	—	16	—

(注)各事業の売上高・営業利益の合計金額と医薬品セグメントの売上高・営業利益との差は、セグメント内の消去額です。

※KMバイオロジクス社に相当

【国内事業】

- ・売上高は、前年同期並みとなりました。薬価改定の影響がありましたが、医療用医薬品では統合失調症治療薬「シクレスト」やアレルギー性疾患治療薬「ビラノア」が大幅に伸長し、2018年9月に発売したインフルエンザHAワクチン「KMB」も寄与しました。農薬でもBASF社と締結した新規農業用殺虫剤「アフィドピロペン」のライセンス契約に伴う一時金収入が寄与しました。
- ・営業利益は、主力品の増収や原価低減の取り組みに加え、研究開発費の期ずれにより前年同期を大幅に上回りました。
- ・2018年4月よりMe ファルマ株式会社を連結子会社化しました。

【海外事業】

- ・売上高は、抗菌薬「メイアクト」や「カナマイシン」の輸出販売が大幅に伸長し、またインドやインドネシアの子会社が好調に推移したことから前年同期を上回りました。
- ・営業利益は、輸出品のコストアップにより前年同期を大幅に下回りました。

【生物学的製剤事業】

- ・売上高は、主力のインフルエンザワクチンや4種混合ワクチン「クアトロバック」が好調に推移しました。
- ・営業利益は、計画通りの進捗となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(単位：億円)

	2018年3月期	2019年3月期 第2四半期累計	対前期末 増減額	主な増減要因
流動資産	3,830	4,158	328	商品及び製品+190、受取手形及び売掛金+75、原材料及び貯蔵品+75
固定資産	5,422	5,880	457	建物及び構築物(純額)+182、 機械装置及び運搬具(純額)+130、 投資有価証券+75、建設仮勘定+63
資産合計	9,252	10,039	786	—
流動負債	2,944	2,934	△9	コマーシャル・ペーパー+110、 短期借入金△84、未払法人税等△17
固定負債	1,356	1,575	219	長期借入金+151
負債合計	4,300	4,510	209	—
株主資本	4,655	4,934	278	利益剰余金+275
その他の包括利益 累計額	217	270	53	その他有価証券評価差額金+57
非支配株主持分	78	323	245	—
純資産合計	4,951	5,528	576	—
負債純資産合計	9,252	10,039	786	—
有利子負債	1,191	1,367	176	長期借入金+151、コマーシャル・ペーパー+110、短期借入金△84
自己資本比率	52.7	51.8	△0.9pt	—

②キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2018年 3月期 第2四半期 累計	2019年 3月期 第2四半期 累計	対前期 増減額	主な増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	387	383	△3	—
投資活動による キャッシュ・フロー	△326	△602	△275	連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出△338、有形及び無形固定資産の売却による収入+57
財務活動による キャッシュ・フロー	△110	166	276	長期借入れによる収入+149、 非支配株主からの払込みによる収入+102
現金及び現金同等物 の四半期末残高	173	214	40	—
フリー・ キャッシュ・フロー	60	△218	△279	—

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2018年5月11日の「2018年3月期決算短信」で公表いたしました2019年3月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしました。

2018年7月にKMバイオロジクス社を連結子会社化したことと、当第2四半期連結累計期間において同社の負ののれん発生益6,584百万円を特別利益へ計上したことなどにより、売上高、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益がそれぞれ前回発表予想を上回る見通しとなりましたので、業績予想を上方修正いたしました。

■2019年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,260,000	百万円 99,500	百万円 99,500	百万円 63,000	円 銭 434.48
今回修正予想 (B)	1,265,500	101,000	101,000	71,000	489.61
増減額 (B-A)	5,500	1,500	1,500	8,000	
増減率 (%)	0.4	1.5	1.5	12.7	
[ご参考] 前期連結実績 (2018年3月期 通期)	1,240,860	94,673	95,877	61,278	422.15

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,613	22,829
受取手形及び売掛金	195,760	203,351
商品及び製品	86,929	106,027
仕掛品	3,344	4,411
原材料及び貯蔵品	46,194	53,756
その他	23,364	25,749
貸倒引当金	△202	△246
流動資産合計	383,004	415,879
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	319,894	337,213
減価償却累計額	△173,777	△172,874
建物及び構築物(純額)	146,116	164,338
機械装置及び運搬具	504,589	523,295
減価償却累計額	△372,142	△377,818
機械装置及び運搬具(純額)	132,447	145,477
工具、器具及び備品	53,736	55,272
減価償却累計額	△42,763	△43,030
工具、器具及び備品(純額)	10,972	12,241
土地	71,454	69,816
リース資産	2,710	2,823
減価償却累計額	△2,063	△2,130
リース資産(純額)	647	693
建設仮勘定	22,323	28,720
有形固定資産合計	383,962	421,287
無形固定資産		
のれん	10,590	10,482
その他	11,964	13,718
無形固定資産合計	22,555	24,201
投資その他の資産		
投資有価証券	90,874	98,440
退職給付に係る資産	20,777	21,491
その他	24,156	22,696
貸倒引当金	△93	△90
投資その他の資産合計	135,715	142,537
固定資産合計	542,232	588,025
資産合計	925,237	1,003,905

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	120,107	119,494
短期借入金	49,749	41,266
コマーシャル・ペーパー	-	11,000
未払法人税等	18,253	16,505
賞与引当金	10,857	10,850
返品調整引当金	72	249
売上割戻引当金	1,943	1,959
その他	93,444	92,166
流動負債合計	294,429	293,492
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	49,353	64,491
退職給付に係る負債	50,330	51,168
役員退職慰労引当金	148	96
その他	15,797	21,792
固定負債合計	135,629	157,549
負債合計	430,059	451,041
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	99,841	100,018
利益剰余金	366,276	393,818
自己株式	△30,521	△30,404
株主資本合計	465,595	493,433
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,188	38,978
繰延ヘッジ損益	△53	26
為替換算調整勘定	268	△1,343
退職給付に係る調整累計額	△11,689	△10,628
その他の包括利益累計額合計	21,714	27,032
非支配株主持分	7,866	32,398
純資産合計	495,177	552,863
負債純資産合計	925,237	1,003,905

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	611,494	611,971
売上原価	391,893	393,706
売上総利益	219,601	218,265
販売費及び一般管理費	174,473	174,425
営業利益	45,127	43,840
営業外収益		
受取利息	69	64
受取配当金	664	698
持分法による投資利益	317	-
為替差益	147	-
その他	742	725
営業外収益合計	1,942	1,488
営業外費用		
支払利息	382	359
持分法による投資損失	-	74
為替差損	-	567
その他	571	454
営業外費用合計	953	1,455
経常利益	46,116	43,873
特別利益		
固定資産売却益	2,672	6,451
負ののれん発生益	-	6,584
子会社清算益	464	-
その他	252	299
特別利益合計	3,390	13,335
特別損失		
固定資産廃棄損	2,039	1,094
関係会社株式売却損	444	2
減損損失	114	1,007
災害による損失	-	1,021
その他	61	977
特別損失合計	2,659	4,103
税金等調整前四半期純利益	46,847	53,105
法人税等	14,856	14,477
四半期純利益	31,990	38,627
非支配株主に帰属する四半期純利益	557	311
親会社株主に帰属する四半期純利益	31,433	38,316

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	31,990	38,627
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,733	5,789
繰延ヘッジ損益	62	83
為替換算調整勘定	△1,477	△1,147
退職給付に係る調整額	1,230	1,060
持分法適用会社に対する持分相当額	133	△548
その他の包括利益合計	4,682	5,237
四半期包括利益	36,673	43,865
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	36,154	43,633
非支配株主に係る四半期包括利益	518	231

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	46,847	53,105
減価償却費	22,401	20,652
減損損失	114	1,007
のれん償却額	823	813
負ののれん発生益	-	△6,584
有形固定資産除却損	2,039	1,087
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△159	△16
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△553	△391
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,578	1,746
受取利息及び受取配当金	△734	△763
支払利息	382	359
持分法による投資損益 (△は益)	△317	74
有形固定資産売却損益 (△は益)	△2,647	△6,225
投資有価証券売却損益 (△は益)	△246	△94
売上債権の増減額 (△は増加)	△11,258	△1,998
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△9,341	△2,429
仕入債務の増減額 (△は減少)	9,518	△3,654
その他	△4,968	△3,414
小計	53,478	53,275
利息及び配当金の受取額	741	774
利息の支払額	△414	△346
法人税等の支払額	△15,103	△15,355
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,700	38,347
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△33,929	△32,661
無形固定資産の取得による支出	△906	△1,646
有形及び無形固定資産の売却による収入	3,807	9,553
投資不動産の売却による収入	1	-
投資有価証券の取得による支出	△1,007	△81
投資有価証券の売却による収入	364	190
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による 支出	-	△33,879
その他	△1,006	△1,705
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,675	△60,228

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	10,410	△347
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	8,000	11,000
長期借入れによる収入	3,157	18,070
長期借入金の返済による支出	△11,581	△11,619
社債の発行による収入	9,955	-
社債の償還による支出	△10,000	-
自己株式の増減額 (△は増加)	△10,053	288
配当金の支払額	△9,499	△10,483
非支配株主への配当金の支払額	△92	△96
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△817	△0
非支配株主からの払込みによる収入	-	10,200
その他	△506	△400
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,026	16,610
現金及び現金同等物に係る換算差額		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△5,286	△5,534
現金及び現金同等物の期首残高	22,624	26,913
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	43
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,338	21,422

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社の食品セグメントに属する株式会社明治のうち菓子工場等及びその一部の国内連結子会社の有形固定資産の減価償却方法については、従来、定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法)を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

2026ビジョンに基づき当連結会計年度より開始した「2020 中期経営計画」において、コア事業での高シェア・高収益を実現していく方針です。具体的には、健康志向チョコなど市場における競争優位性の高いコア事業の市場が拡大していることから、当社グループは経営資源をコア事業に集中し、これに合わせた設備投資を計画しております。これを契機に、生産設備の稼働状況を検討した結果、長期安定稼働が見込まれるため、定額法により取得原価を耐用年数にわたって均等配分することが、今後のグループの経営実態をより適正に反映するものと判断しました。

この変更により、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は2,080百万円増加しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2017年4月1日 至2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	534,038	77,456	611,494	-	611,494
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	236	324	560	△560	-
計	534,274	77,780	612,055	△560	611,494
セグメント利益	40,907	4,354	45,261	△133	45,127

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△133百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに
に配分していない全社費用△139百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係
る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	524,617	87,354	611,971	-	611,971
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	211	246	458	△458	-
計	524,829	87,600	612,430	△458	611,971
セグメント利益	39,005	5,115	44,120	△280	43,840

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△280百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに
に配分していない全社費用△287百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係
る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、KMバイオロジクス株式会社の株式の一部を取
得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、
当第2四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「医薬品」のセグメントに
おいて65,261百万円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載のとおり、当社
の食品セグメントに属する株式会社明治のうち菓子工場等及びその一部の国内連結子会社の
有形固定資産の減価償却方法については、従来、定率法(ただし、1998年4月1日以降に取
得した建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額
法)を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

この変更により、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間の食品セ
グメントのセグメント利益は2,080百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損に係る重要な変動はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第2四半期連結累計期間において、KMバイオロジクス株式会社の株式の一部を取
得し、連結範囲に含めた事により、「医薬品」のセグメントにおいて負ののれん発生益を
6,584百万円計上しております。